

# 行事の意義を考える 季節の行事「冬至」

第146号 2019年12月16日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談やご要望に応えるコンシェルジュがいるように、保育においても様々なご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=ミマモルジュとして、保育に関するご要望にお応えしていけるよう活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢



## 12月の室礼



冬至は一年の中で最も昼の短い日。今年は2019年12月22日。

**三宝荒神様のお札**：かまどの神、火の神として知られ、三宝荒神は災いから守り、金銭を融通してくれる力強い神として家の守護神。

**内藤新宿唐辛子**：火に見立てた盛り物。赤色は厄除けに。

**南瓜**：かぼちゃ（別名：南瓜なんきん）。無病息災の願いを込めて。

**柚子**：無病息災の願いを込めて。

**こんにゃく芋**：「こんにゃく」は別名「砂おろし」「砂払い」と言われ、1年間で体内に溜まった砂（不要）を追い出してくれるとされています。

**小豆**：赤い色が邪気払いに繋がる。

**ねずみ瓜**：年が終わり、新たな年を迎えることを、十二支の始まりである「子（ね）」にかけた、言葉の盛り物。枯れてもまた芽吹いて連なる瓜の蔓に、年々のつながりを託します。

---

## 冬至

---

今回もカグヤクルーの宮前さんに「室礼」について、インタビューを行いました。



宮前さんの実家の畑で実った柚子



宮前さんから頂いた柚子



宮前さんの実家の畑で実った  
内藤新宿唐辛子

奥山 先日、宮前さんから頂いた柚子でゆず湯に入りました。ありがとうございました！わざわざ持って来てくださったその気持ちに心までほっこり温まりました。

宮前 それは良かったです！

奥山 あの柚子はご実家の畑で採れたものと伺いました。

宮前 はい、そうです。数年前から畑で柚子が取れるようになりました。「桃栗3年、柿8年、柚子の大バカ18年」という言葉があり、それくらい実が付くまでに時間が掛かると言われ、父も「長年実らずあきらめかけた頃に、実がなった！」と、以前話していたことを思い出しました。

奥山 「桃栗3年、柿8年」は聞いたことがありましたが、柚子はそんなに時間が掛かるのですね。

宮前 他にも「柚子は9年でなりかかる」「柚子は9年の花盛り」という言葉もあるそうで、柚子は9年経って花を咲かせ、さらに9年後に実をつけるそうで、まさに何事も成し遂げるまでには相応の年月が必要だと教えてくれているようですね。

奥山 子どもの成長のように時間が掛かるんですね。ところで、どうして冬至の日に柚子湯に入るのでしょうか？

宮前 柚子湯の由来としては、冬が旬の柚子は香りも強く、強い香りのもとには邪気がおこらないという考えもあります。柚子（ゆず）＝融通が利く、冬至＝「湯治」の語呂合せからとも思われていますが、もともとは運を呼びこむ前に厄払いするための禊（みそぎ）だと考えられています。

奥山 語呂合せから来ていたのですね！

宮前 ちなみにまた、柚子は実るまでに長い年月がかかるので「長年の苦労が実りますように」との願いも込められていたようです。

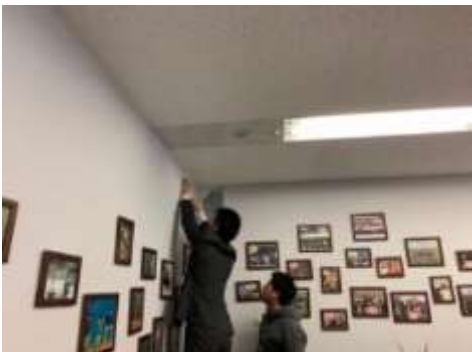
奥山 なるほど！社内では最近、柚子を使って柚子胡椒やゆず塩、柚子ポン酢を作っているクルーもいて、この時期ならではの季節を感じます。室礼に盛られた内藤新宿唐辛子は、元々新宿御苑で育てられていた江戸の



毎年、早稲田にある穴八幡宮へ宮前さんが参拝に！



「一陽来復」の御守



その年の恵方に御守りが向くように、反対側の壁のなるべく高いところに貼るため、正確な方角を皆で真剣に確認していきます。

伝統野菜のようで、会社が新宿にあることもありますから、何だか誇らしいですね。

**宮前** 本当ですね。2、3年前から父が育てていたみたいですが、江戸の伝統野菜だというのは私も今年初めて知りました。畑で見た唐辛子は、ピカピカしてて火の見立てにもなり、厄除としても強そうな感じがしました。

**奥山** 厄除けとしてもご利益がありそうな唐辛子ですね！

**宮前** そうですね。お供えから下げたら、柚子と唐辛子を使って私も柚子胡椒を作ってみようかなと思っています。

**奥山** それはいいですね！こんにゃく芋も育てられているそうで、何でも育てていることに本当に驚かされます。

**宮前** こんにゃく芋は育てるのが難しく、去年は枯れてしまいました。今年も挑戦中です。実家の畑から収穫してきた柚子や内藤新宿唐辛子なども一緒に盛らせて頂いたり、行事の由来を知れば知るほど、過ごし方や感じ方もなんだか楽しく変わってくるものです。

**奥山** どんどん暮らしが豊かになっていきますね！12月に入り、だんだん陽が暮れるのが早くなってきましたね。

**宮前** 本当ですね、17時頃には外はすっかり暗いですね。室礼の先生が仰るには、この時期は周りのお年寄りの方など、冬至に向けて、体調もあきらかに落ちていくことが多いようです。

**奥山** それはどうしてでしょうか？

**宮前** 「一陽来復」のとおり、冬至を境に、陰極まって陽になっていくので、自然なことではありますが、そういう意味では、この時期はあまり無理せず、南瓜やこんにゃくを食べたり、柚子湯に浸かったりと、先人が残してくれた冬至の風習に力をお借りするのがいいそうです。

**奥山** 一陽来復…。何年も前から宮前さんが一陽来復のお札を買って来てくださっていましたが、一陽来復にはどういう意味がるのでしょうか？

**宮前** 昔から、冬至を境に春が近づくことから、冬至は運が上がる日だと考えられていたようで、この考えは中国で「一陽来復」と呼ばれ、冬が終わり、春が始まるという意味の他にも、悪いことが続いた後で物事がよい方向に動き出すという意味があります。

**奥山** なるほど！

**宮前** 昔は陰と陽に分けて物事などを捉え、この2つが「バランス」を保つことで世の中のあらゆることが上手く回るとされていたそうですの



で、「一陽来復」には陽が戻ってくるという意味があり、冬至を指す言葉となったとも言われています。

**奥山** それは知りませんでした！

**宮前** 冬至は、一年で最も昼が短く夜が長い日のことで、明るい時間が短いと何となく気分も曇りがちですが、この日を境に昼がどんどん長くなるため、冬至以降は明るい時間が増える転機の日とも言えるんです。

**奥山** 転機と受け止めると気分が明るくなりますね！

**宮前** そうですね。そう考えると、冬至は何となくこれからよいことが起こる兆しにも思えますね。そういう意味では冬至は、一年の始まりとも考えられる大事な節目ですから、きれいにお掃除をしたり、「運盛り」と呼ばれる「ん」のつく食べ物を頂いたり、柚子湯に入ったり、たくさんの運を味方につけられるよう過ごしてみるのがよさそうで、これらを冬至に食すと、これからの一年を無病息災で過ごせると言われているようです。

**奥山** なるほど、そういう謂れがあったんですね！

**宮前** そんな風に先人が残してくれた行事の風習には、やっぱり季節の流れにのり自然に沿って過ごしていけるからか、どこか安心感をおぼえます。そして、そんな安心感が、やっぱり私たち人間も自然の一部であることを思い出させてくれているようです。

**奥山** 本当ですね。

**宮前** また、室礼の盛物のねずみ瓜は、一年が終わり新たな年を迎えることを、十二支の始まりである「子（ね）」にかけた、言葉の盛り物です。

**奥山** この瓜はねずみ瓜というんですね、来年は子年ですから縁起がいいですね！

**宮前** 枯れてもまた芽吹いて連なる瓜の蔓に、年々のつながりを託します。師走は、時間的にも気持ち的にもせわしくなりがちですので、なおさら心のゆとりを持って、こんな行事を楽しめたらと思います。

**奥山** 本当ですね、今回もインタビューありがとうございました。

## ●過去のバックナンバー

### 第143号

第15回見守る保育リーダー研修②

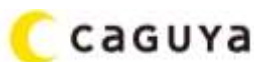
### 第144号

第15回見守る保育リーダー研修③

### 第145号

むかしの田んぼ 2019 総集編

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2 号館 10 階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、

＼ QRコードからお願いします。／